

## 第5回 竹原市総合計画審議会

日時：平成30年11月26日（月）13:00～14:10

場所：竹原市民館 3階 第8会議室

### 1 開会

### 2 答申（報告）

会長 （答申の報告）

事務局 （基本構想案の前回審議会からの変更点について説明）

### 3 市長あいさつ

副市長 （あいさつ代読）

### 4 議題

基本計画案について

事務局 （基本計画案について説明）

会長 施策の方向性を整理するだけで、このように分厚い資料となる。素朴な疑問でも結構なので、御意見をお願いしたい。

委員 29ページで移住者を増やしたいというのが目標であれば、成果指標へ具体的に現在の移住者の数を入れて、目標を示してはどうか。

事務局 IターンやJターンなどの移住者を特定することは困難で、把握が現実的に難しい。転入者の総人数はわかるので、転出者と転入者を比較して転出者の方が多いことから、転出超過数の減少を図ることを成果指標として盛り込んでいる。

会長 転出超過数とは、転入者が0人としても、300人以上の人が転出している現状を受け、今後は、転入者を増やしつつ、転出者を減らしていくための施策を打ち出していくということで、転出超過数を成果指標として設定している。

委員 42ページの成果指標の現在の値と41ページのグラフの数字が違うのはなぜか。41ページのグラフの●や△が何を示しているのかもわからない。通過率の定義をどこかに書いてほしい。

事務局 41ページのグラフについては、御指摘のとおり国語や算数などの表示がないので、このグラフそのものを使うことも含めて、これから校正していく。このグラフはレイアウトのイメージであり、まだ校正が迫いついていないが、教科名の記載など修正していくつもりである。成果指標の表示も、県平均や全国平均に対してプラス1ポイント、プラス2ポイントなどの表示にしたほうがわかりやすいのではないかとということも見直しをしているところである。

委員 今後人材確保で一番重要になるのは介護人材である。介護人材に特に力をいれるということを強調してほしい。これは安心して暮らせるまちとして非常に重要である。若い人の雇用創出にもなる。

事務局 市内の中小企業に話を聞くと人材不足ということをよく言われる。特に医療・介護分野でもそのような傾向が高い。どちらかといえば、51・52ページは、企業の雇用を中心とした書き方になっている。医療・介護分野の人材確保を、この雇用・労働という分野で補足するのがよいのか、67ページの高齢者福祉という分野で記述をしたほうがよいのかは、検討したい。

委員 32ページで成果指標として地価公示を設定しているが、31ページのグラフを見ると目標値がかなり厳しい設定になっていると感じる。これが目標像の目標として適切かどうかも含めて、もう一度考えていただきたい。

事務局 土地の価格については、その土地を必要とする人が多ければ価格が上がっていくという原理・原則がある。今回の総合計画では、人口減少が進む中でも、住みやすいまちづくりができれば土地の価値が底を打つような形で、それが成果にならないかということでこの指標を設定している。

委員 原理・原則は理解しているが、実際のところは利用者がいないのに地価が高すぎるのではないか、家賃が高すぎるのではないかという話がある中で、市場原理を反映するというのもあるのであろうが、実際の状況を考えたときに十分な説明ができていないように感じる。

会長 人口が増加しているときは、地価が上がっていくため、成果指標としては、適切と考えるが、人口が減っている現状において、成果指標として設定するには、少し工夫が必要であると考えている。

委員 目標像1の分野の自然環境について、活用の方向性としてグリーンツーリズムが挙げられているが、それ以外の農業や漁業などの活用もあるのではないだろうか。活用の幅をもう少し広く設定してもよいのではないかと感じている。

事務局 御指摘のとおりであり、検討させていただきたい。

委員 介護を必要としない自分の力で日常生活を送れるように、小地域サロンのような事業を進めていくなど、高齢者の方に外へ出てもらい、地域の方と常に連携を取ることで、地域で高齢者の状況を把握するなど、これからは近所が助け合わなくてはならない。各地域で高齢者の見守りがしっかりできるような施策が必要であると考えている。

委員 大久野島には休暇村しかなく、昼食を食べるところがない。船に関しても、お客さんが多いときは、10時に船着場に行っても船に乗れる人数が限られおり、すぐに船に乗ることができなかつたりする。そのようなところも改善してもらえれば、もう少し活性化するのではないかと。

また、若い方に竹原市に来てもらうには、乳幼児の医療費の助成などがあればよいのではないかと。人口を増やしたいのであれば、そのような考えを持ってもらえれば少しは変わるのではないかと考えている。

事務局 竹原市ではマスコミに取り上げられることで多くの観光客が来てくれている。大久野島もインターネットを通じて外国人など色々な人に知ってもらい、多くの人に来るようになった。御指摘のような課題も急激に増えている状況である。交通事業者との課題や駐車場などの課題もあり、おもてなしというところでは観光客のニーズに答えられていないところである。すぐには解決できないが、関係者と協議しながら少しずつ解決に向けて取り組んでいきたい。基本計画の中でも観光・交流ということで取り組んで

おり、どうすればたくさんの方に繰り返し来てもらえるかという視点から施策を打ち出していきたい。

事務局 乳幼児医療については、数年前に他市に先んじてそのような支援を打ち出したが、他の市町も追随しており、現在は平均的な支援の状況になっている。子育て世代に竹原市に住んでもらえる一つの要因であり、魅力的な施策を今後考えていきたい。計画の中にどのように示すかについては少し検討させていただきたい。

委員 目標像5の施策の方向性として人権推進とあるが、多文化共生社会について、外国から来られる方々との共生は良いことであるが、サポートが十分ではないと感じるところがあるので、具体的にどのようにしていくかなど、外国から来られる方々に対する文言があってもよいのではないだろうか。検討していただきたい。

委員 30ページの取組の方向性の中の「検討します」という表現は良いのか。「対応します」「進めます」などの表現が一般的であるが、「検討します」は少し違和感を覚える。

47ページの目標像3の協働のまちづくりのところで、成果指標の自治会加入率の目標値が現在値と同じような値であり、成果指標として出す必要がないと考える。

71ページの地域福祉について、成果指標として民生委員の充足率というのは違和感がある。地域福祉に関してはもっと他に指標を挙げられたほうが良いのではないだろうか。地域でこのように頑張ってもらいたいというニュアンスを出していただきたい。

会長 行政だけの目標ではなく、市民協働という視点で成果指標を設定することも重要であり、もう一度検討していただきたい。

表現の仕方については、御指摘のとおり「推進します」などの文言にしなければならぬところがある。これももう一度見直していただきたい。

委員 63ページの健康づくりのところで救急医療の充実についての記載があ

るが、現在の休日診療所は非常に狭く点滴もできない。休日診療所を整備し直すという視点もいるのではないだろうか。場所的にもわかりにくい位置にある。

89ページの防災・減災について、今回の災害でわかったのは、現在の避難所では、障害者などは行けないということである。設備が整っていないため避難所に行けないという状況が明らかになったので、災害の種類や障害の程度に応じた避難所の設置などが良いのではないだろうか。

事務局 復旧・復興プランを重点施策として位置づけており、資料12ページの実施策3「そなえの強化」で避難所の見直しについて考えている。14・16・18ページにそれぞれ実施策に基づいて主にどのように進めていくのかをまとめる予定である。

委員 豪雨災害以降はかなり被害を受け、観光客が減少傾向である。取組の方向性として、現在あるコンテンツに対してどう呼び込むかということが書かれているが、民間と連携したような新たな取組ができて良いのではないかと感じた。

町並み保存地区でも、ここ数年で空き家が増えてきている。表面的に見える部分の修繕には補助があるが、見えない部分を個人レベルで修繕していくのは厳しいところもある。

会長 資料2・3はまだ作成途中の案であり、また意見があれば出していただき反映させていきたい。

## (2) その他について

事務局 (将来都市像の実現に向け、重点的に取り組む基本計画案のプロジェクトについて説明)

会長 資料はないが、横断的な重点プロジェクトについて検討しているということなので、それについてもまた議論したい。

## 5 閉会

以上